

みんなで育てよう、緑豊かな私たちの森！子ども達に贈る自然いっぱい森

# 能ヶ谷西緑地だより

2026年3月1日号 240号 能ヶ谷西緑地・樹の会

## 【3月の予定】

◆3月14日（土）（雨天翌日）

・南斜面整備

◆3月28日（土）（雨天翌日）

・竹林周り整備

\* 9:00 現地集合（9:00～11:30）

◆3月7日（土） 10:00～12:00

・やままゆ連・手作りカフェー

平和台集会所

問合せ：伊藤（735-8623）

どなたでも参加自由です。

作業には汚れても良い服装でおいでください。



※※※※※※※※ 緑地だより ※※※※※※※※

2月14日（土）晴 参加者 9名

一番寒い時期ですが、今日は風もなく暖かいです。作業は側溝の泥さらい。例年暮れに行いますが、年を越して今日になりました。中央広場の長い側溝には斜面から落ちる土や落ち葉がたまり、場所によっては深さの半分位埋まっています。スコップでかき出すのですが、土が多いと重くてシニアの身には重労働。でも皆で交代しながらやれば負担は減ります。側溝にふたをすれば土や葉がたまるのをだいぶ防げるのではないかと。伐採した緑地の竹など使い作るのも方法の一つかなと思います。

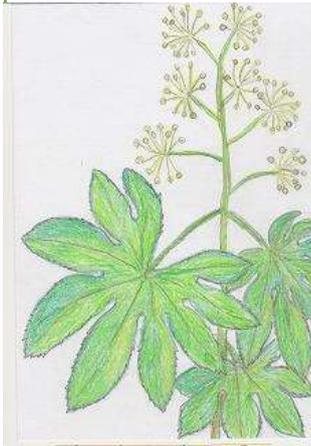
あとの作業は通り道にはみ出している枝などの剪定を行い、終わりに柔軟体操をやりました。仕事の後の体操は体をほぐし、腰痛なども防ぐのにとっても良いです。そして会員の手作りお菓子をいただいて散会。

（宮崎）



竹割り

## 【緑地に稔る】ヤツデ（八手）



日本原産のウコギ科ヤツデ属の常緑低木です。冬の「魔除」や人を招く「千客万来」の縁起物として玄関先によく植えられています。

別名「テングの羽団扇」。葉が大きくて掌状に裂けた独特の形で見分けやすいです。晩秋に丸くまとまって咲く白い花は、昆虫に蜜を供給しています。

（長谷部）

2月28日（土）晴 参加者7名

まだ2月ですが、晴れて暖かい作業日和でした。天気予報ではスギ花粉が大量飛散すると報道があり、緑地のスギも青茶色い花がたわわについています。私を含め花粉症の人が何名か鼻水、目のかゆみで一々作業を中断してマスクを脱着して鼻水をかんだりを繰り返しました。

今日は前回に引き続き中央広場の側溝の掃除をみんなでしました。側溝には枯れ葉に加え泥が堆積しており、手間がかかります。前回作業をしたところに早くも土が流入して再度溝さらいを行うところもあり、溝さらいはかなりのハードワーク、休みながらの作業ですが疲れしました。

作業後、昨年11月に参加したまちカフェの反省会を行いました。会員の増加を目的にして参加しましたが会員増には結びついていません。実際に緑地に来てもらい作業を体験するようなイベントが良いのではとの話に賛意が多く、具体化して春の実施を検討することになりました。

花広場の梅は満開、花桃も蕾がピンク色になり数輪開いて、早くも黄色のちょうちょうが飛んでおり、今年は一足早く春が来たようです。緑地で取れた早春の恵みであるフキノトウをみんなで分けて持ち帰りました。

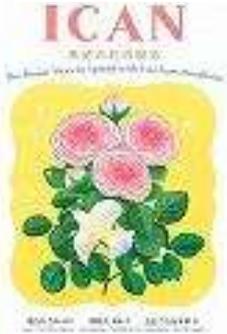
（藤井）

【緑地を楽しむ本】

『ICAN～希望の花の物語～』

栗山ひろみ/原作 種蒔友/編集・文 おおうちあす華/絵

Studio Dolittle



爆弾を落とされたまちに住んでいた少年は、親兄弟もなくし、戦争が終わっても、その心は重く沈んだままでした。

ある日、近所のおじさんが少年にバラの鉢植えをくれました。美しいバラの花は、少年の心に、明かりをともしましたのです。

焼け野原を花で埋めつくそう、花を見た人みんなの心が明るくなって、戦争などなくなりますように・・・願いを込めて少年はバラ園を作りました。

いつまでも戦争は無くなりません。けれども人々の間に、戦争を止める試み（核兵器廃絶国際キャンペーン ICAN）が始まりました。

ある時バラ園に新しいバラが生まれました。

既におじいさんとなっていた少年は、平和への願いを込めて、そのバラに「ICAN」という名前を付けたのです。ICANは世界中に広まっていき、人々の心を励ましてくれます。

「武器はいらない、平和な世界を作ろう。

ICAN・・・きっとできる」

戦争は、現在もなお続いています。

「この物語は、まだ終わっていません。あなたもまた、つづきの未来を作る主人公の一人です」

この本の最後の言葉です。安心して楽しく生きていける日々のために、私も一輪でも花を咲かせたい、と思いました。

(小川)

【やままゆ連・手作りカふえ】

女の小正月遊び

2月7日(土) 10:00~12:00

平和台集会所

この日は前日の暖かさとは打って変わって、小雪が舞う寒い日でした。こぢんまりした集まりでしたが、それぞれに百人一首、お手玉、けん玉、あやとり、四字熟語カルタ等を持ちよりました。

あやとりでは、カニ、箒を作れるまでに、何回も練習！けん玉、お手玉は実力に差が出ました。

四字熟語カルタは100枚ほどあり、読み札の最初に説明、最後に熟語が出てきます。取る人はまず説明だけから、何という熟語かを考え、漢字も思い浮かべます。「うーん、これって、何という熟語だったっけ?」「こんな熟語、知らなかった」「この熟語って、こんな意味だったの?」「こんな漢字、書けない」

巧言令色、捲土重来、羊頭狗肉、大器晚成

明鏡止水等々。四字熟語は中国から来たものがほとんどのようです。適度に難しく、脳活にもなり、なかなか楽しいカルタでした。

カフェメニュー：  
鬼ゆずチョコ

(齋藤好子)

